

人の移動・資本主義・主体性の生産 現代社会哲学の批判的介入

サンドロ・メツザードラ (ポローニャ大学) 来日企画

2019.6.15 (土) 14:00~17:00

フーコーとマルクス

現代世界における「戦争」と統治性

*Foucault and Marx in the Contemporary World: War, Governmentality and Beyond*

於：京都大学人文科学研究所本館 4階大会議室  
(市バス「百万遍」歩5分、京阪「出町柳」歩15分)

共催：京都大学人文科学研究所共同研究班  
「フーコー研究 人文科学の再批判と新展開」

英語講演 (日本語訳配布、質疑通訳あり) \* Lecture in English

2019.6.16 (日) 15:00~18:00

移民／階級／都市

現代都市空間の分断と境界をまたぐ労働力移動

*Migration/Class/City: Fragmentation in Contemporary Urban Spaces and Mobility of Labor Power across Borders*

於：remo / コーポ北加賀屋 (大阪市住之江区北加賀屋5-4-12 四つ橋線「北加賀屋」歩10分)

共催：関西非正規等労働組合、オペライズモ研究会、  
釜ヶ崎史料研究会

イタリア語講演 (日本語逐次通訳) \* Lecture in Italian

2019.6.18 (火) 18:30~20:30

欧州の難民・移民と階級をどう見るか？

境界研究の理論的視座

*Refugees, Migrants, and Classes in Europe Today: Theoretical Interventions from Border Studies*

於：ピープルズプラン研究所 (東京都文京区関口1-44-13 信生堂ビル2F 有楽町線「江戸川橋」歩10分)

イタリア語講演 (日本語逐次通訳) \* Lecture in Italian



サンドロ・メツザードラ (Prof. Dr. Sandro Mezzadra)

ポローニャ大学人文学部准教授 (政治哲学)。西洋思想史研究、非正統派マルクス主義、社会哲学、ポスト植民地主義論を理論的背景に、グローバル化と人の移動、労働と主体性、現代資本主義を多角的に考察する「境界研究」の旗手として世界的に活躍。昨今のEUの移民・難民危機にも積極的に行動・発言する。邦訳書に『逃走の権利』(人文書院、2015)など。近著*Politics of Operations* (2019)、*In the Marxian Workshops* (2018)、*Border as Method* (2013)では、一連の主題が、リーマンショック後の情勢を踏まえつつ、関連分野の研究動向と世界各地の事例も交えて探究される。